

日本音楽教育メディア学会
(JAPANESE MEDIA SOCIETY FOR MUSICAL EDUCATION)

JMSME News Letter

2025.7 vol.21

発行:令和7年7月15日
日本音楽教育メディア学会事務局
〒125-0062 葛飾区青戸 5-5-16
jmsmeoffice@gmail.com
ホームページ
<https://jmsme.org/>

「進化」×「変化」

会長 飯泉祐美子

暑中お見舞い申し上げます。

毎年毎年記録的な猛暑と言われるこの頃ですが、みなさまいかがお過ごしでしょうか？年々、猛暑日の到来の日が「記録的」に早まり、そのスピードは人々の日常生活を揺るがす勢いとなっています。これはもはや「記録的」ではなく、地球が日々「進化」を遂げているから起こっている現象と考えて、これは、当たり前の「変化」であると思ってもいいのかもしれませんが。つまり私たちは、この「進化」と共に生き、当たり前に多様に「変化」していかねばならないといえます。

思い起こせば、2020年の緊急事態宣言により、私たちは「変化」に迫られました。2019年のGIGAスクール構想の予算化が閣議決定した際、どんなに国がお金を出しても、その思惑通り、教員がタブレットを持った児童・生徒の教育についていけるのだろうかと心配しましたが、コロナ禍によるステイホームが、よりその変化を後押しし、加速させました。困難を乗り越えるために、その「進化」が加速したということは何とも皮肉なものです。（※2019年12月13日に閣議決定で令和元年度補正予算案において、児童・生徒向けの1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備するための経費が盛り込まれた。）

私たち日本音楽教育メディア学会では、この10年間「音楽」×「教育」×「メディア」という三つの切り口からどんな「変化」×「進化」を遂げてきたのでしょうか？「気候変動」や「デジタル化」のように柔軟に「変化」×「進化」を遂げてきたのでしょうか？そして10年後の2035年にはどんな研究が盛んにおこなわれているのでしょうか？

「変化」×「進化」に敏感な学会でありたいと考えます。

2025年度もどうぞよろしく願いいたします。



日本音楽教育メディア学会 第12回総会、第21回研究会のご案内

日時：2025年8月10日（日）

場所：葛飾シンフォニーヒルズ 別館 4階 ライラック

11：30 総会

13：30～ 口頭発表

14：45～16：15 **アフタヌーンティ** ☕

（お茶を飲みながら話題についてお話ししませんか？）

会場とオンライン（Zoom）でのハイブリッド開催となります

参加費：会員無料 非会員 1,000円（事務局に参加お申し込みください）

17：00～懇親会（青砥駅周辺予定）

事務局：jmsmeoffice@gmail.com

【口頭発表】（発表20分、質疑応答10分）

13：30 「領域表現「子どもと音楽表現」実践の取り組み

—はらぺこあおむしを取り上げて—

飯泉琴都（帝京科学大学教育人間科学部こども学科）

14：00 「節音階を用いた旋律づくりにおける学習指導モデルの提案

—子どもたちの作品と創作過程の分析結果に基づいて—

岡田 愛（東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科）

—休憩—

【アフタヌーンティ】 14：45～16：15



会費納入のお願い

2025年度（2025年8月1日～2026年7月31日）の年会費の納入をよろしくお願ひいたします。

〈振込先〉 ゆうちょ銀行 10510-91267401

他銀行よりお振込みいただく場合：

店名〇五八（読みゼロゴウハチ） 店番 058（普） 9126740

ニホンオンガクキョウイクメディアガッカイ

※入会・退会に際しまして、又、会費についてご質問等ございましたら事務局までご相談ください

前回のイ短調に続いて、今回はイ長調を取り上げる。題材にしているシューマンの『ユーゲントアルバム』op.68では、初回に取り上げたハ長調が6曲、前回のイ短調が8曲、そして今回のイ長調は7曲ある。

イ長調の根底にある性格を読み取るために、シューベルトのイ長調のソナタを挙げてみよう。第13番(D.664,op.120)の第1楽章は、穏やかに流れる小川のような伴奏に、大らかに自然を歌い上げるような旋律がのっている。



また、第20番(D.959)の第4楽章でも、心を落ち着かせるような和やかな旋律が平穏を感じさせる。



同じようなことがJ.S.バッハのプレリュードからも見て取れる。2巻の19番も、牧歌的な旋律が12/8拍子によって、止まることなく流れていく。



それでは、シューマンの『ユーゲントアルバム』op.68では、イ長調はどのように扱われているのだろうか。

第17曲「朝の散歩をする子ども」



付点の弾むようなリズムがカノンのように追いかけて、生き生きとした力強さ、新鮮な空気を感じさせる。

第20曲「田舎の歌」



こちらにも4分音符と8分音符を使ったリズムが多用され、2/4拍子と相まって行進曲風な躍動を表現している。

第24曲「刈り入れの歌」



3度と4度のハーモニーがホルンの響きのような温かさを醸し出している。どの曲も、前述のシューベルトやバッハのような留まることのない動きとは一致しないが、明るく素朴で、穏やかな時の流れを感じさせる。

連載「子どもの歌」明治以前の「子どものうた」～わらべうた～ 飯泉祐美子（帝京科学大学）

連載 16 回目の今回は、明治以前の「子どものうた」についてふれる。

「わらべうた」は 18 世紀ころから盛んに歌われるようになったといわれ、子どもたちが遊びなどの生活の中で口伝に歌い継ぎ、作り変えてきた歌である。あそびの中で伝承される性質をもち、子どもの民謡といえるものである。

「わらべうた」には自然現象や民俗行事に関するもの、そしてあそびうたなどがあり、更に、あそびうたには、まりつき、なわとび、おてだま、鬼ごっこ、絵描きうた、羽根つき、お手合せ、じゃんけん、おはじき、はやしたてる歌、数え歌、しりとり歌、早口歌、となえうたなどと分類されることもある。

旋律形は跳躍音程が少なく、リズム形も等拍を基準に構成されている。音域およびその高さは通常の会話とほぼ同じくらいであり、子どもたちにとって歌いやすく、また、歌に合わせて自然に身体を動かし、生き生きと表現できるものであるといえる。

かつて保育の現場でインタビュー調査した歌ったことがあるわらべ歌に挙げられたわらべうたは以下のとおりである。

あがりめさがりめ あぶくたった あんたがたどこさ いちにのさんののしのご いちもんめのいすけさん
一本橋こちょこちょ おしくらまんじゅう おせんべやけたかな おちたおちた おちゃらか おてらのおしょうさん
かごめかごめ げんこつやまのためきさん こどもとこどもがけんかして 十五夜さんのもちつき ずいずいず
っころばし たけのこいっぽんおくれ だるまさん ちゃつぽ ちょちちょあわわ とおりゃんせ

《新入会員メッセージ》

箱崎理沙（武蔵高等学校）

皆様お久しぶりです、すっかりご無沙汰してしまい申し訳ありません。私はコロナ禍のときにこちらの学会の仲間入りした箱崎理沙と申します。今年で 4 年目になります。最近の私は、武蔵高等学校の教員として芸術科周りの仕事をしつつ、サクソフォン奏者、楽曲制作・アレンジャーとして活動しています。コロナが収まり以前のように自由に活動できることに日々喜びを感じています。昨年に引き続き、今年も 8 月に 3 週間ほどフランス（パリ、ポワティエ、ボルドー）に、地方の音楽祭への参加と研修のために行きます。研修では、自分の専門であるサクソのレッスンの他に、室内楽や指揮法を学びます。近年、日本でそうであるように、フランスでもデータ（iPad）での楽譜共有・閲覧が主流となりつつあります。データで著作物を扱うには、情報モラルやセキュリティの知識が必須となりますが、フランス人（フランスに住む者たち）はその辺りの感覚はきちんとしているように思います。例えば、楽譜は必ず原譜を購入しますし、データのやり取りは安易に行いません。コンサートの動画撮影なども明確な線引きがあるようで、例えば野外コンサートといったフリーの会場で、学生やアマチュアの演奏は割とフランクに撮影するのに対し、プロの演奏になるとそれをしません。SNS への投稿にも慎重で、必ず一緒に写っている相手に投稿の了承をもらいます。内容もポジティブなものしか目にしません。日本人（日本に住む者たち）と比べて、人や著作物に対して「敬意」をより多く持っている印象です。データ管理面以外にも生活の至るところで、物に対する考え方の違いを感じます。フランスの友人に日本のスーパーで購入した野菜果物の写真を見せたところ、「全部プラスチックに包まれていて気味が悪い」と言われたり（苦笑）、科学博物館の鳥展の写真を見せると、鳥の剥製を見て「動物たちが可哀想」とその動物の命のことを考えます。（涙）何を強く感じ思うかが、行動の違いに現れるのだと思います。そんなこんなで、今年も異境の地で様々なことに触れ、自分の人生とこの世界を考えていこうと思います。

《新入会員メッセージ》

伊藤菜々子（有明教育芸術短期大学）

皆様、はじめまして。このたび新たに入会させていただきました、伊藤菜々子と申します。現在、有明教育芸術短期大学にて、音楽教育、ピアノ実技、保育内容（表現）、などの科目を担当しております。

学生時代からピアノを中心にクラシック音楽を学び、演奏活動にも継続的に取り組んできました。近年では、子どもの表現や、音楽を通じたコミュニケーションの可能性に関心をもち、保育・初等教育の現場における表現活動や音楽の役割について研究と実践を重ねています。

本学会では、音楽や教育に関するさまざまなご研究に触れながら、メディアという広い視点から、自分自身の実践や研究を少しずつ深めていけたらと思っています。皆様とお話したり、学ばせていただけることを楽しみにしております。どうぞよろしく願いいたします。

他学会からの講演から「AI 時代におけることば、身体、学び」 ～今井むつみ氏の講演より～

小林 田鶴子（神戸女子大学）

2025年5月10日、日本学校音楽教育実践学会の30周年記念シンポジウムで、慶應義塾大学教授の今井むつみ氏（認知科学）の基調講演が行われた。テーマは「AI 時代におけることば、身体、学び」である。氏は次期学習指導要領の改訂に携わり、「AI の時代に必要な教育とは」を課題として今年4月にその案をまとめられた。

今回の講演はそのポイントに触れながら、音楽教育に携わる者への、貴重な提言がなされていたので、その概略をここに紹介する。認知科学者として、学力や知識獲得、そして、AI と人間の違いが以下のように述べられ、知識獲得を促す要素についても示された。

- ・学力喪失の原因として、最近の子どもは「アブダクション推論」という、一義的に正解が決まらず論理の跳躍を伴う非論理推論ができなくなっていることが挙げられる。
- ・幼児は身の周りの多くの情報からこの「アブダクション推論」を通して世界をわかろうとする。誤りを修正していきつつ知識を獲得する。
- ・人間の知識獲得をAI のそれを比べてみると、人間は、少ない点から面に広げていくことができるが、AI は多くの点を埋めていくことでしか面を作れない。
- ・現在、子どもはAI 的になっている。算数がただ記号（数字）操作をしているだけになっている。2分の1と3分の1がどう違うか、体験としてつながっていないので、数字だけを見て3分の1が大きいと答える。
- ・また、「記号接地問題」という、シンボルが実世界とどう結びついているかを認識できないことも課題として挙げられる。

・抽象的な概念を簡単に接地させ、点を面にするコツを覚えることが必要。子どもは記号接地をしないと覚えられない。（例）単位としての「1」がわかっていないと、小数のかけ算や割り算ができない

・音楽・美術・体育・技術家庭は記号接地を促す。音楽は分割された音符の概念などで記号接地を助けることができる。

AI は記号接地をしない。統計的な大量のデータを蓄積して導き出すのみ。

今後の教育には、ワクワクしながら夢中になって何かをする中で学びを得る「プレイフルラーニング」と「記号接地」が重要。

ここで、音楽や美術などの実技教科が「記号接地」を促すことが述べられており、ともすれば、「主要5教科」以外として軽く扱われがちな教科が、実は、子どもの理解を促すのに重要であることが示されている。

AI が益々盛んに使用される今後に向けて、音楽教育に携わる我々が重要な役割を持っていることが、改めて認識された講演であった。

会員掲示板



Die Taubenpost
～ドイツ歌曲演奏会～ 2025

Vol.53	上田 暲 (Br.) 石田啓秀 (Fl.) 比呂志 大 (サクソフォーン) 型号番号 1, 2, III (ギター)	飯島聖都 (Sop.) 田中実莉歌 (Fl.) 北ノ川 悠 (Op.22) 乙女の足	新築木麻 (Sop.) 松井美穂 (Fl.) ルベラ 7つの朝顔の歌
茂木真由美 (Sop.) 浪田直子 (Fl.) F. Schubert 有名なグレートヘン (ギター) D.118 春の陣 (ヴァイオリン) D.448	青木寛子 (Sop.) 伊藤夏海 (Fl.) 風と花の歌 春の陣 (ヴァイオリン) D.448	藤澤彩子 (Sop.) 白川千尋 (Fl.) ワグネル 日本の朝顔 (ワグネル) 夜の祈り (ハープ)	増田 尚 (Sop.) 市村和康 (Fl.) 風と花の歌 ワグネル 日本の朝顔 (ワグネル) 夜の祈り (ハープ)
上野紗和 (Sop.) 眞井千穂 (Fl.) 北ノ川 悠 (サクソフォーン) パタのゴッ (サクソフォーン) Op.36-1 15分ミニエ (サクソフォーンと角笛) Op.36-2	室越海希 (Sop.) 市川麻白 (Fl.) 北ノ川 悠 (サクソフォーン) わたしの歌 (ハープ) Op.48-2 響け！ (サクソフォーン) Op.48-3 春よよき来！ (ピアノ) Op.48-4	増田 尚 (Sop.) 市村和康 (Fl.) 風と花の歌 ワグネル 日本の朝顔 (ワグネル) 夜の祈り (ハープ)	田中里奈 (Sop.) 濱田雄雄 (Fl.) E.W. ロンズダット 3つの歌曲 Op.22
吉永都二 (Bar.) 白川千尋 (Fl.) H. ヴェルム 美の陣 (ヴァイオリン) 美の陣 (ヴァイオリン)	梶谷佳苗 (Sop.) 佐々木 悠 (Fl.) A. ヴェルム ドイツ国歌の讃歌によるワグネルの歌 (サクソフォーン) Op.4	田中里奈 (Sop.) 濱田雄雄 (Fl.) E.W. ロンズダット 3つの歌曲 Op.22	

Vol.53 10/4 (土) 同日と
Vol.54 11/1 (土) 18:00 開演 会場 ルーテル市ヶ谷 (17:30 開場)

チケット (全席自由) 各回 ¥2,000
通し券 ¥3,000 (限定10枚)

チケットのお支払はデータキャスト事務局または出演者にてお願いします。

お申し込み・お問合せ
Die Taubenpost事務局
ensembledie@gmail.com

●会場 市ヶ谷駅前下車
●座席 2上出口 座多7分
A1出口 座多7分
5.6出口 座多2分
5.8出口 座多2分

東京音楽大学市ヶ谷校
TEL. 03-3260-8621

事務局だより 🌻 今年はセミの鳴き声を聞かない、という声を各地で耳にします。観測史上最短となった梅雨。そして連日の猛暑とゲリラ豪雨。気候変動の影響は私たちの生活環境にも大きな影を落とすつつありますが、そうした影響が現われるものの一つに「音の風景」があるといえます。そういえば、スズメの声もミツバチの羽音も近年では聞かれにくくなりました。「春の小川」（河骨川＝渋谷川の支流）のサラサラ流れる音が失われたのは、レイチェル・カーソンが『沈黙の春』（1962）を著した翌年（昭和の東京オリンピックの前年）のことでしたが、それから60年以上が経過した現在、セミの鳴かない「沈黙の夏」虫の鳴かない「沈黙の秋」が来ないことを願うばかりです。未来の子どもたちが「虫の声」「ぶんぶんぶん」を共感を持って歌い継げるように！（か）